

様式第2号（第5条関係）

令和7年6月5日

出張報告書

栗山町議会議長 鵜川和彦様

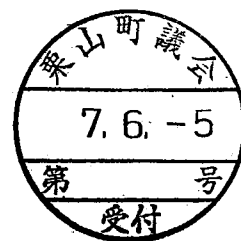
栗山町議会議員 鈴木千逸



このたび、下記のとおり出張いたしましたので報告します。

記

- 1 期 日 令和7年5月25日
- 2 旅行先 神奈川県
- 3 目 的 議会広聴活動について
- 4 関係書類 別紙のとおり



日 時	令和7年5月25日（15：45～17：15）
視 察 先	小田急海老名貸し会議室海老名駅前店 会議室D
調査事項	議会における広聴広報活動の本質とこれからの活用のあり方について
対 応 者	一般社団法人 地方公共団体政策支援機構 上席研究員 渡辺 太樹 氏
1. 視察目的 2. 視察内容 3. 主な質疑 4. 考 察 (感想、政策提 言、課題など)	<p>議会が行う広聴活動について講義いただいた。</p> <p>研修の前に EBPM（エビデンス・ベスト・ポリシー・メイキング。証拠に基づく政策立案）について説明を受けた。政策の企画をその場限りのエピソードに頼るのではなく、政策目的を明確化したうえで合理的根拠（エビデンス）に基づくものとする事で、わかりきっていることではあるがここから講義が始まった。</p> <p>そもそも広聴とは、住民の声を議会活動（政策議論・策定・予算決算）に反映させるために行う。また、広報とは、議会活動をわかりやすく伝え、住民との共通理解を形成するために行う。しかし、現実にはやるだけの報告・意見交換会、同じ顔ぶれの参加者、一方通行の告知、実績のアピールとなっている場合が多い。課題を解決する政策を作るために広報広聴があるのにそうっていない。住民の声を政策に反映して、結果を広報することが広報・広聴の目的であり、広聴・広報を政策（総合計画・予算）に活かすことが目的である。</p> <p>【広報広聴を活用するための3つの着眼点】</p> <p>① 誰に ② 何を ③ どうやって聴く・伝える</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・どのターゲットに何を伝える・聴くのかを定めることから始まる。これを栗山町のデータを基にして確認する。これまでのアンケートの回答者では50歳以上の声が77%である。</li> <li>・50代未満の声をどう拾うか。</li> <li>・どのような雇用を求めているのか。</li> <li>・栗山へ移住した人は何に困っているのか。</li> <li>・公共交通はなんで不便なのか。</li> <li>・商業施設商店街に何を求めているのか</li> </ul> <p>これらを踏まえて若者の声を聴くことが重要であり、政策立案に</p>

不可欠なことである。今回の研修を参考にして誰に何を聴いていくのかを考えて今後の広聴活動に役立てたい。